

令和3年 5 月 24 日
気象庁大気海洋部

お知らせ

～災害対策基本法及び「避難情報に関するガイドライン」改定への
防災気象情報の対応について～
(令和3年3月8日付お知らせ関連)

災害対策基本法が令和3年に改正(災害対策基本法等の一部を改正する法律(令和3年法律第30号):5月10日公布、5月20日施行)されたことを受け、令和3年5月10日に「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)が改定され、避難情報と防災気象情報との関係が一部変更されました。

・避難情報に関するガイドラインの改定(内閣府:令和3年5月10日)
http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/

また、令和2年における風水害において明らかとなった課題に対応するため、「防災気象情報の伝え方に関する検討会」報告書が令和3年4月28日にとりまとめられ、提言された推進すべき取組のうち準備が整ったものから順次実施します。

これらに伴い、別紙1、2のとおり変更する運用を開始します。

なお、これらの変更に伴う気象庁防災情報 XML フォーマットの変更はありません。

また、標記関連お知らせにおける「大雨危険度通知」の運用変更日時が決まりましたのでお知らせします。

○運用変更日時

令和3年6月3日(木)13時00分初期値のデータより

1. 早期注意情報（警報級の可能性）と警戒レベルとの関係の一部変更

(1) 変更内容

これまで、大雨に関する明日までの「早期注意情報(警報級の可能性)」のみ警戒レベル1に位置付けられていましたが、5月20日からは大雨に関する明後日以降の「早期注意情報(警報級の可能性)」も含めて、災害への心構えを高める必要があることを示す警戒レベル1に位置付けられます。本変更に伴う気象庁防災情報XMLフォーマットの変更はありません。また、気象庁ホームページ等において、警戒レベルに対応した解説を掲載します。

なお、大雨危険度通知(VPRN50)では、早期注意情報(警報級の可能性)(明日まで)を警戒レベル1の判定に用いていますが、早期注意情報(警報級の可能性)(明後日以降)も警戒レベル1の判定に用いる変更を実施予定です。実施日時は決まり次第速やかにお知らせします。

(2) 変更の対象となる情報のデータ種類コード・ファイル名

- ・早期注意情報(警報級の可能性)(明後日以降)

VPFW60

2. 土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）と警戒レベルとの関係の一部変更

(1) 変更内容

土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)の「極めて危険」(濃い紫)は、市町村が避難指示(緊急)を発令する目安として警戒レベル4相当情報としてこれまで位置付けられていましたが、5月20日からは警戒レベル4相当の位置付けではなくなります。本変更に伴うフォーマットの変更はありません。また、気象庁ホームページ等において、警戒レベルに対応した解説を掲載します。

(2) 変更の対象となる情報のデータ種類コード・ファイル名

- ・土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_INF_Jdosha_Ggis1km_ANAL_grib2.bin

3. 大雨特別警報（土砂災害、浸水害）と警戒レベルとの関係の一部変更等

(1) 変更内容

警戒レベル5相当情報である大雨特別警報(土砂災害、浸水害)は、市町村が発令する災害発生情報の発令基準としては用いないこととされてきましたが、5月20日からは市町村が発令する警戒レベル5緊急安全確保の発令の判断材料となります。

また、大雨特別警報(土砂災害)の指標(発表条件)のうち長時間指標を廃止し、

1km 格子の土壌雨量指数の基準値のみによる運用を6月3日 13 時頃から開始します。なお、大雨特別警報(浸水害)の指標(発表条件)はこれまでどおりの運用を行います。

これらの変更に伴う気象庁防災情報 XML フォーマットの変更はありません。また、気象庁ホームページ等において、警戒レベルに対応した解説を掲載します。

(2) 変更の対象となる情報のデータ種類コード・ファイル名

- ・気象特別警報・警報・注意報
VPWW53 及び VPWW54
- ・表形式一覧表
Z_JJP*_*_MET_INF_Jwarn00_NJ*_image.pdf

4. 記録的短時間大雨情報の運用の変更

(1) 変更内容

記録的短時間大雨情報は、大雨警報発表中に数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測又は解析したときにこれまで発表してきました。6月3日 13 時頃からはキキクル(危険度分布)の「非常に危険」(うす紫)が出現している二次細分区域の記述がある場合にのみ発表を行います。本変更に伴う気象庁防災情報 XML フォーマットの変更はありません。また、気象庁ホームページ等において、改善後の情報に対応した解説を掲載します。

(2) 変更の対象となる情報のデータ種類コード・ファイル名

- ・記録的短時間大雨情報
VPOA50

5. 高潮警報の運用の変更

(1) 変更内容

高潮災害からの避難は、潮位が上昇する前に暴風で避難できなくなるため、高潮警報のみで避難が必要とされる警戒レベル4に相当しているか判断できるよう、6月3日 13 時以降の発表からは、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える可能性が高い注意報」を高潮警報として発表する運用を行います。本変更に伴う気象庁防災情報 XML フォーマットの変更はありません。また、気象庁ホームページ等において、改善後の情報に対応した解説を掲載します。

(2) 変更の対象となる情報のデータ種類コード・ファイル名

- ・気象特別警報・警報・注意報
VPWW53 及び VPWW54
- ・表形式一覧表
Z_JJP*_*_MET_INF_Jwarn00_NJ*_image.pdf

6. 避難情報の対象とならない地域への洪水警報及び大雨警報（浸水害）の発表を抑止する運用を開始

(1) 変更内容

洪水警報等を市町村の避難情報や住民の自主避難等の判断に一層活用いただくために、洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)及び浸水キキクル(大雨警報(浸水害)の危険度分布)において、避難指示等の対象とならない地域では「警戒」(赤色)や「非常に危険」(うす紫)、「極めて危険」(濃い紫)が出現しないようにしたうえで、警報等の発表を抑止する運用を行います。この変更につきましては、6月3日から準備が整った都道府県から順次実施予定です。本変更に伴うフォーマットの変更はありません。また、気象庁ホームページ等において、警戒レベルに対応した解説を掲載します。

なお土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)について、同様の取組をすでに実施済みです。また、洪水警報の危険度分布(流路形式)については、上流域の危険度を早期警戒に活用いただけるよう、本変更は実施しません。

(2) 変更の対象となる情報のファイル名

・洪水警報の危険度分布

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_GPV_Ggis1km_Plfc_Aper10min_FH0000-0300_grib2.bin

・大雨警報(浸水害)の危険度分布

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_GPV_Ggis1km_Plic_Aper10min_FH0000-0100_grib2.bin

・大雨警報(浸水害)・洪水警報の危険度分布(統合版)

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_GPV_Ggis1km_Plfdc_Aper10min_FH0000-0300_grib2.bin

7. 顕著な大雨に関する情報の運用開始

(1) 変更内容

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って府県気象情報、地方気象情報、全般気象情報において解説を行う運用を6月17日から開始します(詳細な運用開始時刻は別途お知らせします)。本変更に伴う気象庁防災情報 XML フォーマットの変更はありません。また、気象庁ホームページ等において、運用を開始する情報に対応した解説を掲載します。

(2) 変更の対象となる情報のデータ種類コード・ファイル名

・全般気象情報

VPZJ50

・地方気象情報

VPCJ50

・府県気象情報

VPFJ50

5段階の警戒レベルと防災気象情報

警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報
5	命の危険 直ちに安全確保! ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨特別警報 氾濫発生情報 5相当
<警戒レベル4までに必ず避難!>			
4	危険な場所から全員避難 ・過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく。 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	土砂災害警戒情報 高潮警報 高潮特別警報 極めて危険 非常に危険 氾濫危険情報 4相当
3	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	大雨警報 洪水警報 ※1 高潮警報に切り替える可能性が高い注意報 警戒(警報級) 氾濫警戒情報 3相当
2	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制)	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報 高潮注意報 注意(注意報級) 氾濫注意情報 2相当
1	災害への心構えを高める 1. 明後日以降の早期注意情報(警報級の可能性)も警戒レベル1に位置付け。	第1次防災体制 (連絡要員を配置)	大雨注意報 洪水注意報 早期注意情報(警報級の可能性)

3. 大雨特別警報が警戒レベル緊急安全確保の発令の判断基準に。大雨特別警報(土砂災害)の指標(発表条件)のうち長時間指標を廃止。

キキクル
(危険度分布)

※2
極めて危険

※1
警戒(警報級)

2. 土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)の「極めて危険」(濃い紫)は、警戒レベル4相当の位置付けではなくなる。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

※2 「極めて危険」(濃い紫)が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、「濃い紫」は大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5緊急安全確保の発令対象区域の絞り込みに活用することが考えられます。

記録的短時間大雨情報の改善

【令和3年6月3日実施予定】

- 記録的短時間大雨情報は、大雨警報発表中に、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることを伝えることで、どこで災害発生の危険度が高まっているかを「キキクル（危険度分布）」で確認し、自主的な安全確保の判断を促すもの。
- 記録的短時間大雨情報を、当該市町村が警戒レベル4相当の状況となっている場合にのみ発表することで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることを適切に伝えられるように改善。

これまで

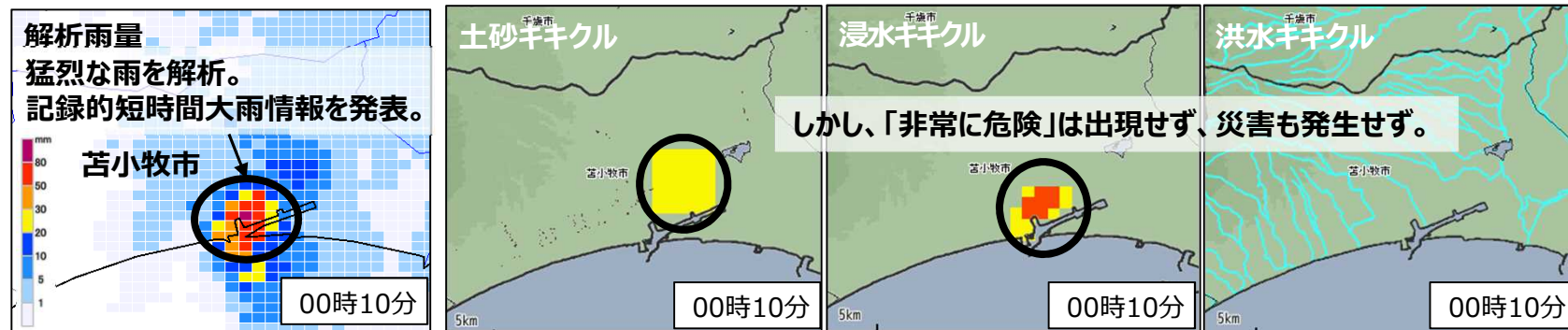
大雨警報を発表中に、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときに発表。

災害発生と結びつきが強い情報に改善

改善後

キキクル(危険度分布)で「非常に危険」(警戒レベル4相当)以上が出現し、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときにのみ発表する。

令和元年11月12日の胆振地方の例



「キキクル（危険度分布）」の危険度を発表条件に加えることで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることが伝わるように改善。

警戒レベルと対応した高潮警報等に改善

【令和3年6月3日実施予定】

➤ 自治体や住民が高潮警報のみで避難が必要とされる警戒レベル4に相当しているかを判断できるよう、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える可能性が高い注意報」は高潮警報として発表するよう改善。

- ✓ 高潮災害からの避難は、潮位が上昇する前に暴風で避難できなくなるため、高潮警報のみでは判断できず、暴風警報も考慮した判断が必要とされている。
- ✓ 高潮警報のみで、避難指示（警戒レベル4）を発令する目安に到達しているかどうか判断できるよう、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える注意報」は高潮警報として発表する。

平成30年台風第21号の例

大阪市		今後の推移 (■ 警報級 □ 注意報級)									
発表中の警報・注意報等の種別		4日					5日				
		3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9
大雨	1時間最大雨量 (ミリ)	0	0	40	70	70	40				
	(浸水害)										
	(土砂災害)										
暴風	風向風速 (矢印・メートル)	陸上	12	14	20	35	35	18	15	12	12
	海上	15	18	25	40	40	23	20	15	15	
波浪	波高 (メートル)	1.5	2	3	4	4	2.5	2.5	1.5	1.5	
	潮位 (メートル)	0.4	0.4	0.8	2.8	2.8	2.2	1.5			

高潮警報のみで避難指示を発令する目安に到達しているか判断できるよう、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える可能性が高い注意報」は、高潮警報（警戒レベル4相当）として発表する。



発表中の警報・注意報等の種別		4日					5日				
		3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9
高潮	(浸水害)										
	(土砂災害)										
	潮位 (メートル)	0.4	0.4	0.8	2.8	2.8	2.2	1.5			



高潮からの避難が必要な状況であることがより明確に伝わるようになり、より安全なタイミングで住民が避難することが可能に。

顕著な大雨に関する情報のコンセプトと情報イメージ

【令和3年6月中旬実施予定】

顕著な大雨に関する情報のコンセプト

● 背景 ～なぜ始めるのか～

毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。この線状降水帯による大雨が、災害発生の危険度の高まりにつながるものとして社会に浸透しつつあり、線状降水帯による大雨が発生している場合は、危機感を高めるためにそれを知らせてほしいという要望があります。

● 位置づけ ～情報のコンセプト～

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。

※ この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報です。警戒レベル4相当以上の状況で発表します。

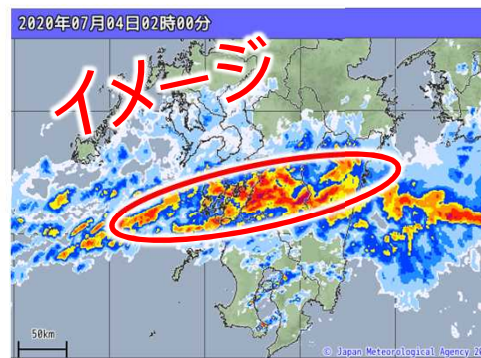
※ この情報により、報道機関や気象キャスター等が「線状降水帯」というキーワードを用いた解説がしやすくなることが考えられます。既存の気象情報も含めて状況を的確にお伝えすることにより、多くの方々に大雨災害に対する危機感をしっかり持っていただくことを期待します。

顕著な大雨に関する情報のイメージ

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

顕著な大雨に関する情報を補足する 図情報のイメージ



○ 大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域

※ 「雨雲の動き」(高解像度降水ナウキャスト)の例。

※ 線状降水帯がかかる大河川の下流部では今後危険度が高まる可能性があることにも留意する必要がある旨、ホームページ等に解説を記述する。